

RESAS基礎・テーマ別セミナー

午後の部 セミナーテーマ／農業

東北経済産業局
企画調査課

① 農業に関するデータの紹介

② RESAS等による分析（演習）

<参考> 分析事例

① 農業に関するデータの紹介

② RESAS等による分析（演習）

＜参考＞ 分析事例

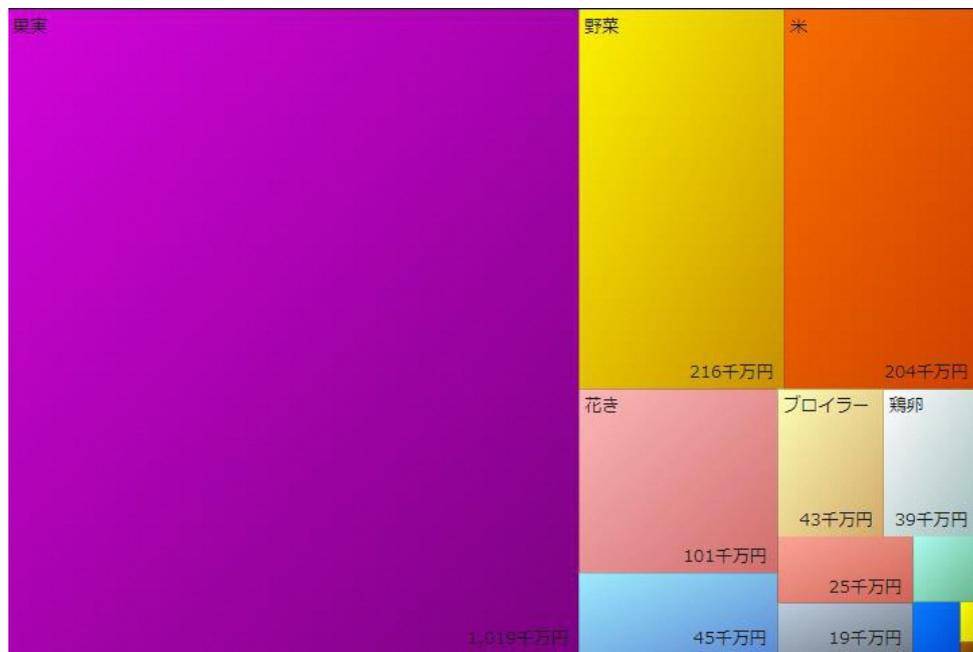
農業の構造

➤ 都道府県・市区町村単位で、農業18部門別の販売金額を表示し、地域の農業の全体像を把握することが可能。自地域のみならず、周辺地域の稼いでいる農業部門を把握することができるため、広域的な視点で農業振興を検討することが可能。 ※データは、2014年～2018年。

産業構造マップ → 農業 → 農業の構造

2018年 品目別 農業産出額 福島市

市町村別農業産出額（推計）：1,741千万円



【出典】 RESAS

都道府県単位

農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」

市区町村単位

農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

主要作物をマップで表示する

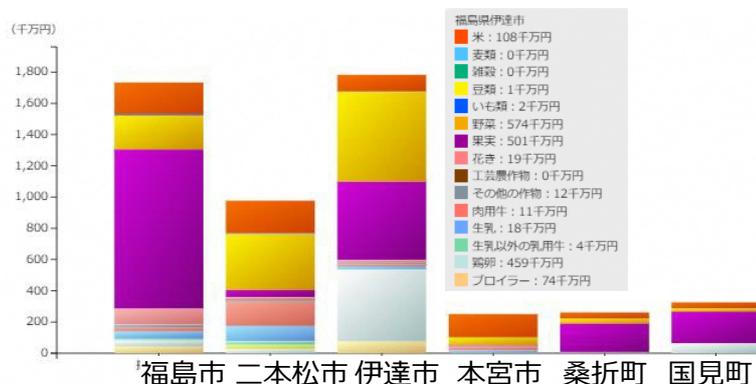
産出額の多い品目を地図上で表示



横棒グラフで表示する

※最大6自治体まで比較可能

品目別農業産出額 県北エリア比較



農業産出額

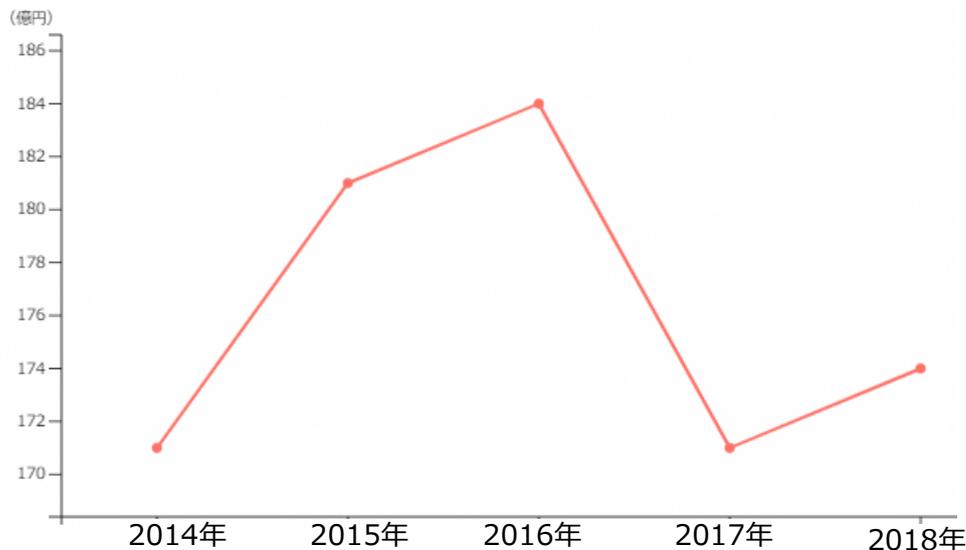
➤ 都道府県・市区町村単位で、農業産出額をマップやグラフで表示し、農業で稼いでいる地域とその分布を把握することで、農業経営者への効率的かつ効果的な経営支援が可能となる。

※データは（総額）が2014～2018年、（経営体あたり）が2015年のみ

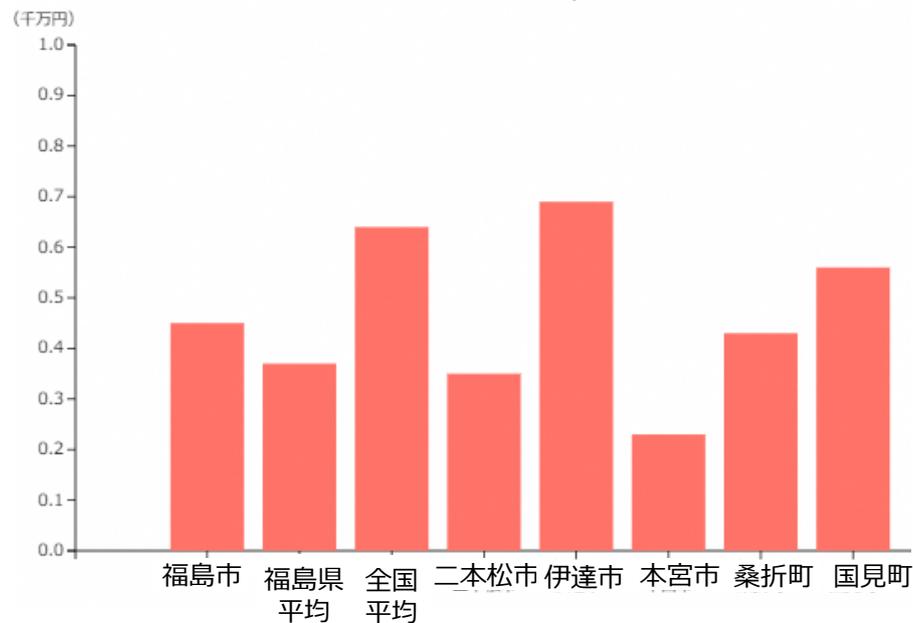
産業構造マップ → 農業 → 農業産出額

主要作物をマップで表示する

農業産出額（総額） 福島市
すべての農業部門

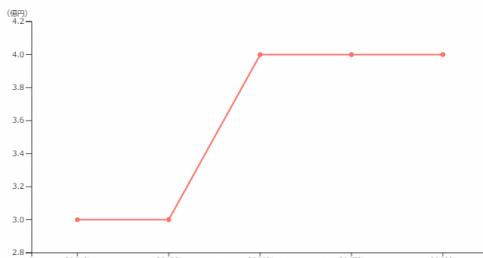


2015年 農業産出額（経営体あたり）
すべての農業部門



農業部門別の農業産出額の推移を表示できる

農業部門：プロイラー



【出典】 RESAS

農林水産省「農林業センサス」

全国単位

農林水産省「農業総産出額及び生産農業所得」

都道府県単位

農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」

市区町村単位

農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

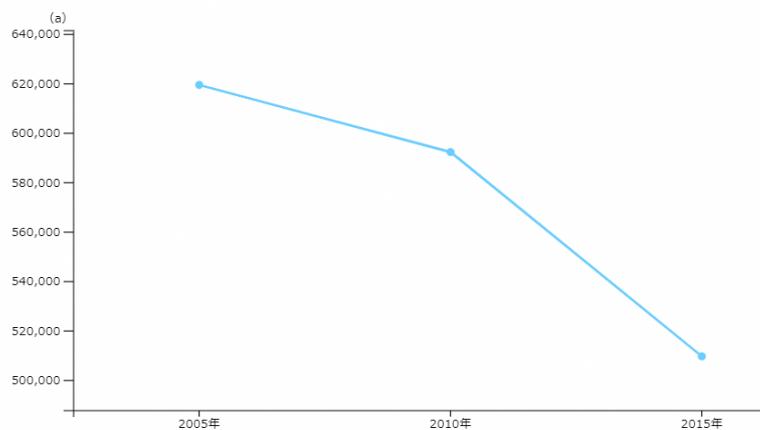
農地分析

▶ 都道府県・市区町村・旧市区町村（約12,000 [昭和25年当時]）単位で、経営耕地面積や農地の利活用状況（農地流動化率や耕作放棄地率）などをマップ上に表示し、農地の有効活用策の検討や新規就農者の受入等の検討に役立てる。 ※データは、2005年、2010年、2015年

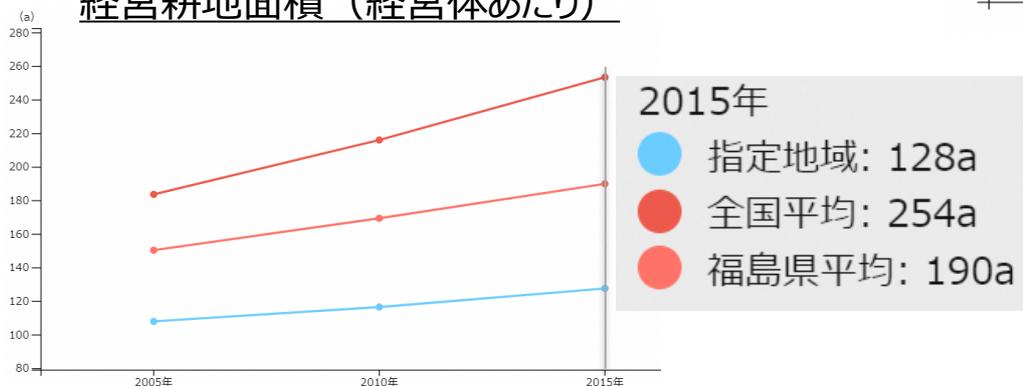
産業構造マップ → 農業 → 農地分析

主要作物をマップで表示する

経営耕地面積（総面積） 福島市

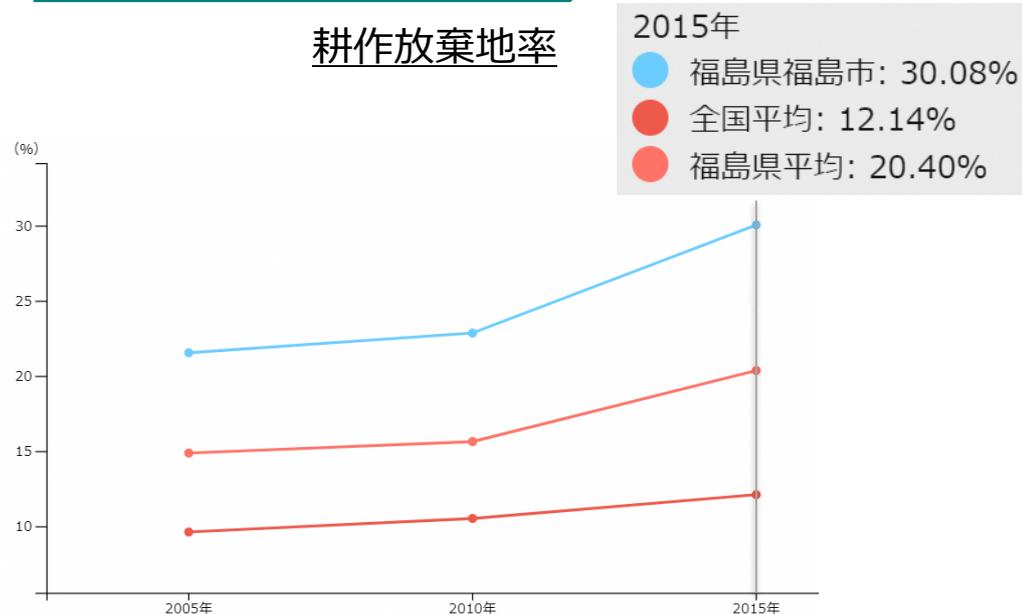


経営耕地面積（経営体あたり）



主要作物をマップで表示する

耕作放棄地率



【出典】 RESAS
農林水産省「農林業センサス」再編加工

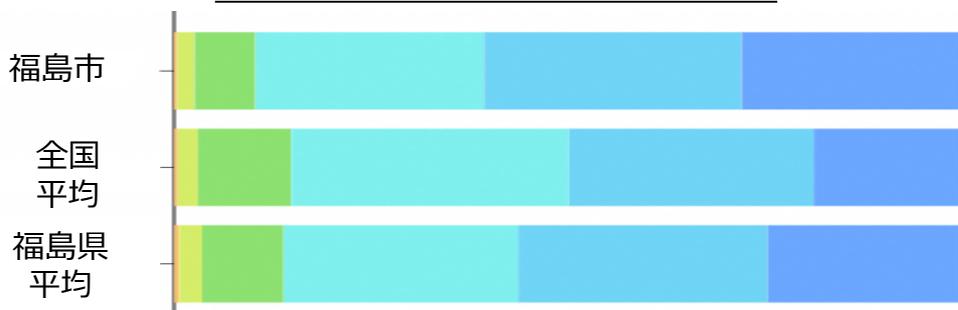
農業者分析

- 都道府県・市区町村・旧市区町村（昭和25年当時）単位で、年間延べ農作業日数、農業経営者の年齢構成、農業生産関連事業の実施状況、法人化率などを分析することが可能。
- 農産物販売金額帯別や農産物の出荷先別における経営体の実態も把握できる。
※データは2005年、2010年、2015年。年間延べ農作業日数は推計値。

産業構造マップ → 農業 → 農業者分析

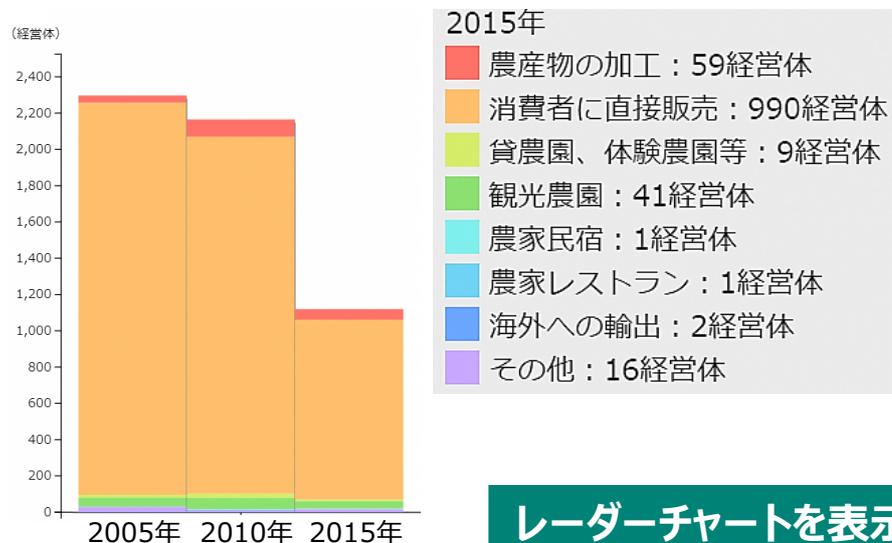
年齢構成・平均年齢

農業就業人口の年齢構成 2015年



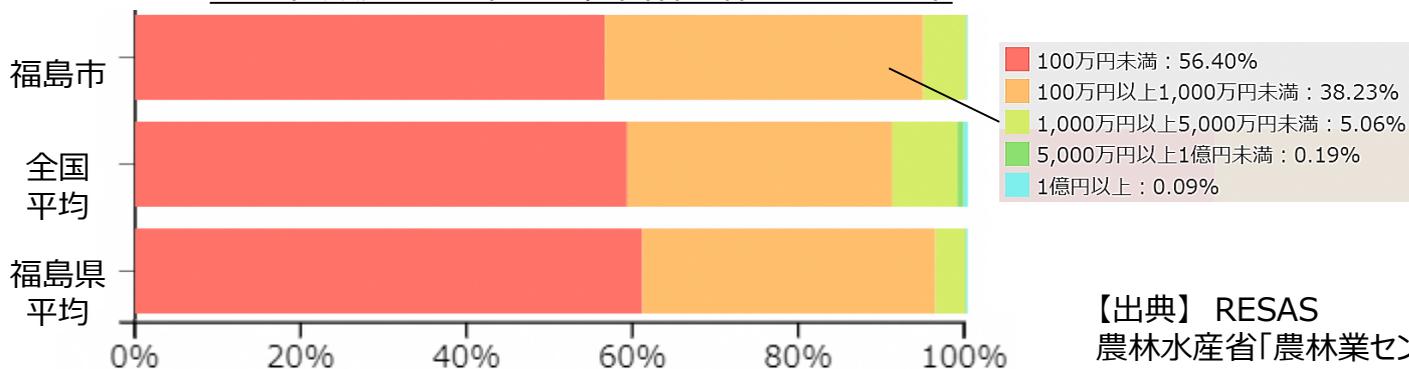
農業生産関連事業の実地状況

農業生産関連事業の実施状況（経営体数）福島市

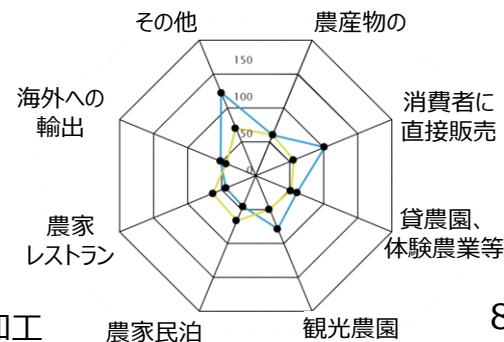


販売金額帯別・出荷先別経営体の割合

農産物販売金額帯別の経営体の割合 2015年



レーダーチャートを表示



【出典】 RESAS
農林水産省「農林業センサス」再編加工

サマリー機能

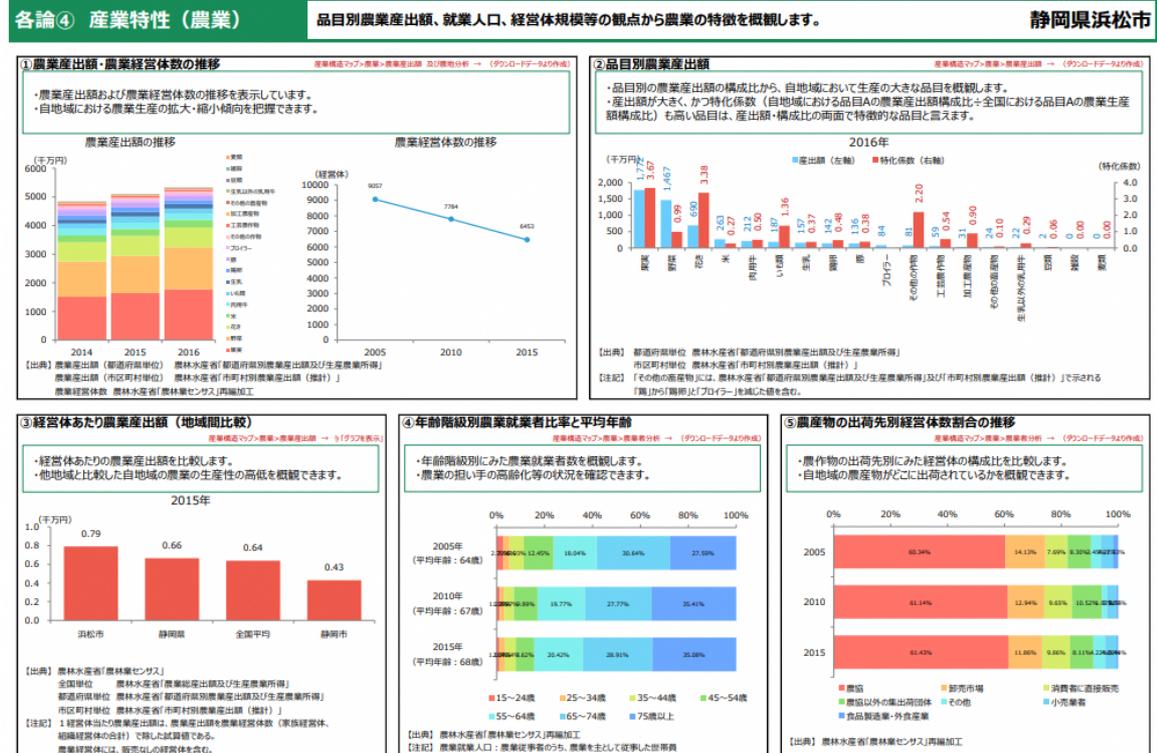
- サマリー機能は、RESASに搭載されているデータ及びグラフを自治体単位でテーマごとに集約したEXCEL形式のファイルでダウンロードできる。
- 農業のテーマでは、①農業産出額・農業経営体数の推移、②品目別農業産出額、③経営体あたり農業産出額（地域間比較）、④年齢階級別農業就業者比率と平均年齢、⑤農産物の出荷先別経営体数割合の推移のデータ及びグラフを自動で作成できる。



<操作方法>

- ① 「サマリー」をクリックする。
- ② RESASサマリーサイトに移動後、サマリー表示地域を選択する。
- ③ 「一括サマリーデータ生成」とクリックする。自動でダウンロードが始まる。
※個別にサマリーデータをダウンロードする場合は、総論・各論からテーマを選択して「個別サマリーデータ生成」をクリックする。
- ④ ダウンロードしたZIPファイルを展開（解凍）した後、「XXX_Summary.xmlsm」ファイルを開く。

ダウンロードしたEXCELデータの例 産業特性（農業） 静岡県浜松市



① 農業に関するデータの紹介

② RESAS等による分析（演習）

＜参考＞ 分析事例

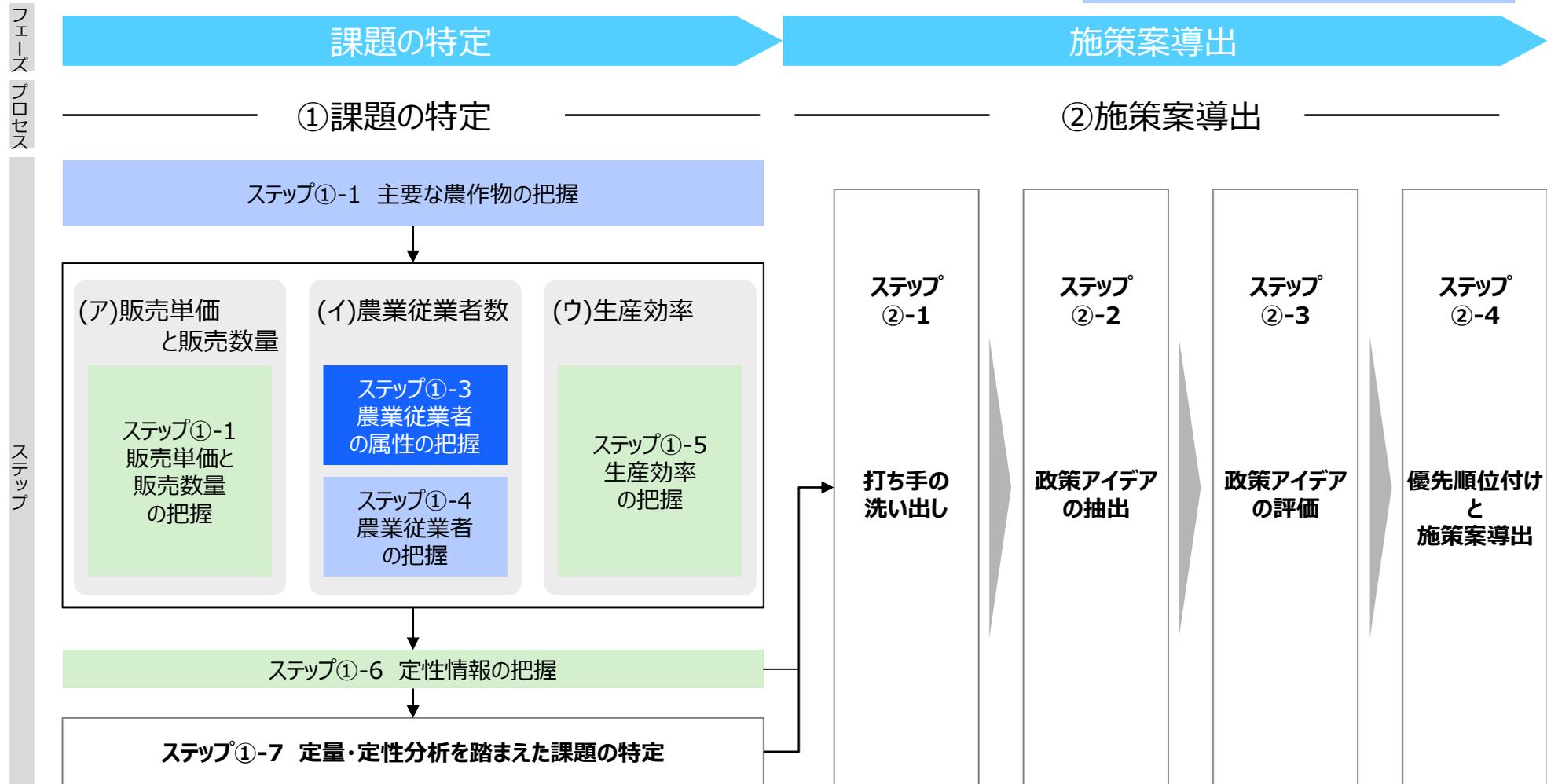
分析の全体像

問題意識：農業収入の向上 ※前提条件



課題特定のための分析手順、施策案導出の分析手順

RESASデータを使用した分析
外部データを使用した分析
RESAS及び外部データを使用した分析



※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

注) ステップ②-3、4は今回実施しない 11

演習の流れ

本日のテーマ：RESAS等のデータを活用して地域の農業を分析しよう！！

★ 進め方★

- 前提条件として、「**農業収入を向上すること**」を問題意識とします。
- 課題特定のための分析手順、施策案導出の手順を参考にして、以下の個人ワークの内容に従って分析を進めます。
- グループワークでは、周りの方々と多様な視点で議論しましょう。

個人ワーク

75分

1. 分析する市町村を選びましょう。
2. 現状把握を行います。RESASや他の統計データを調べて分析結果を【**現状把握**】に記入しましょう。
3. 現状把握の結果を参考にして、課題特定を行います。次に特定した課題に対して打ち手を考え、政策アイデアをまとめます。【**課題特定～施策アイデアの抽出**】に記入しましょう。

グループワーク

15分

4. 個人ワークで行った現状把握から政策アイデアの抽出までの内容をグループ内で共有してください。一人3分以内で発表し、グループ全員の発表後に意見交換をしてください。

ステップ No	ステップ 内容	分析手順内容	使用データ	分析結果（記入してください）
ステップ ①-1	主要な農産物の把握	特徴的な農産物の品目を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業> 農業の構造	
		農業経営体数と栽培面積の観点から、主要な農産物を把握する	RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html >市町村別の統計データを見る>県・市町村を選択する	
ステップ ①-2	販売単価と販売数量の把握	主要農産物の販売数量や卸売市場単価などを把握する	RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html 青果物卸売市場調査等 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/seika_orsj/ 令和元年度福島県産農産物等流通実態調査の結果 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/R1kekka.html	
ステップ ①-3	農業従業者の属性の把握	農業経営者の特徴を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業> 農業者分析 >平均年齢・年齢構成	
ステップ ①-4	農業従業者数の把握	農業経営体数の規模と推移を把握する	RESAS以外>農林業センサス(農業経営体数) http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2015/dai1kan.html	
		農業就業人口の規模と推移を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業者分析>データをダウンロード <RESAS以外>農林業センサス(年齢別農業就業人口) http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2015/dai1kan.html	
		農業経営体数や従業者数の増減に対し、経営耕地面積および耕作放棄地率がどのように変化しているかを把握する	RESAS<産業構造マップ> 農地分析	
ステップ ①-5	生産効率の把握	農産物の生産効率を把握する	<RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html >データを検索>県、ジャンル名、最新データ+過去のデータを選択>検索	
ステップ ①-6	定性情報の把握	課題の特定に影響し得る定性情報を把握する	<RESAS以外>農林水産省HP、植物防疫所HP（農林水産省管轄）等	

課題特定～施策アイデアの抽出

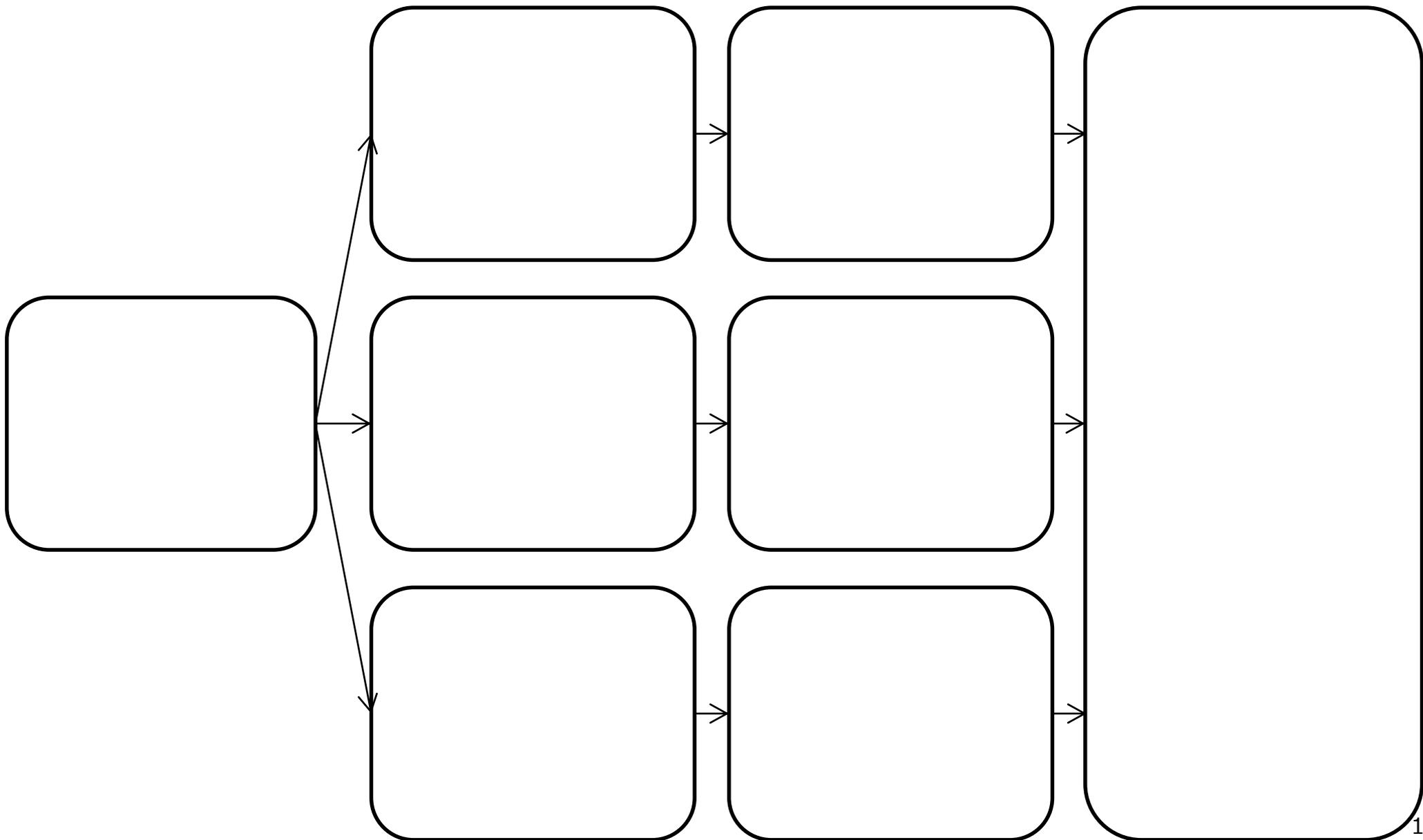
地域：市町村名を記入

ステップ①-7
課題特定

要因特定

ステップ②-1
打ち手の洗い出し

ステップ②-2
施策アイデアの抽出



ステップ No	ステップ 内容	分析手順内容	使用データ	分析結果（記入してください）
ステップ ①-1	主要な農産物の把握	特徴的な農産物の品目を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業> 農業の構造	・果実の産出額が農業産出額全体の半数以上を占め、2014年から2015年で農業産出額は増加している。19頁参照
		農業経営体数と栽培面積の観点から、主要な農産物を把握する	RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html >市町村別の統計データを見る>県・市町村を選択する	・果実の生産が盛んで、特におうとう（さくらんぼ）の経営体数が多い。20頁参照
ステップ ①-2	販売単価と販売数量の把握	主要農産物の販売数量や卸売市場単価などを把握する	RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html 青果物卸売市場調査等 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/seika_oros/ 令和元年度福島県産農産物等流通実態調査の結果 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/R1kekka.html	・山形県の水準では、さくらんぼ（おうとう）の販売単価は上昇傾向にある。21頁参照
ステップ ①-3	農業従業者の属性の把握	農業経営者の特徴を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業> 農業者分析 >平均年齢・年齢構成	・全国に比べれば高齢化割合は高くないものの、若年層就業者の減少が著しい。22頁参照
ステップ ①-4	農業従業者数の把握	農業経営体数の規模と推移を把握する	RESAS以外>農林業センサス(農業経営体数) http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2015/dai1kan.html	・農業経営体はここ10年（2005年から2015年）でおよそ3割減少。山形県内の農業経営体数の減少割合とほぼ同様。23頁参照
		農業就業人口の規模と推移を把握する	RESAS>産業構造マップ>農業者分析>データをダウンロード <RESAS以外>農林業センサス(年齢別農業就業人口) http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2015/dai1kan.html	・農業就労者はここ10年（2005年から2015年）で半数以下に減少。24頁参照
		農業経営体数や従業者数の増減に対し、経営耕地面積および耕作放棄地率がどのように変化しているかを把握する	RESAS<産業構造マップ> 農地分析	・農作放棄地が増加、経営耕地面積が減少。25頁参照
ステップ ①-5	生産効率の把握	農産物の生産効率を把握する	<RESAS以外>農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」 http://www.machimura.maff.go.jp/machi/index.html >データを検索>県、ジャンル名、最新データ+過去のデータを選択>検索	・作付面積当たり収穫量が低下している。26頁参照
ステップ ①-6	定性情報の把握	課題の特定に影響し得る定性情報を把握する	<RESAS以外>農林水産省HP、植物防疫所HP（農林水産省管轄）等	・農業法人等の次世代経営者の育成支援など、国が就農をサポートする体制が整っている。28頁参照

ステップ①-7
課題特定

要因特定

ステップ②-1
打ち手の洗い出し

ステップ②-2
施策アイデアの抽出

• おとうの販売単価が増加しているが、収穫量が減少している

• 作付面積当たり収穫量が低下している

• 若年層を中心とした農業就労人口が減少している

• 農作放棄地が増加、経営耕地面積が減少している

• 農業経営体の法人化により、効率的な農産物の生産を目指す

• 国の支援制度を活用し、農業就労者人口を増加させる
• 将来農業の担い手になる人材を呼び込むために、地域の農家が農業に興味のある若者を指導できる体制を作る
• 市民農園の拡充により、農業に携わる人口を増加させる

• 耕作放棄地を利用して農業収入を増加させる

• 自治体が主体となり農業に興味のある若年就農者が山形県へ移住するための施策を打つ。
→国の支援制度の更なる活用
→耕作放棄地の無償提供、住民の格安提供等の条件整備

• 自治体が主体となり、ボランティアやNPO法人と協力し、市民農園を拡充させる。
→耕作放棄地を利用した市民農園での作物栽培
→農家が若者や農業に興味のある人に対して技術指導できる体制を構築

• 自治体が主体となり、民間企業や農協と協力し、耕作放棄地を再利用し特産品であるおとう等の栽培面積を拡大する。
→農業経営体の法人化による生産・販売体制の効率化
→効率化によって生まれた労働力の活用

① 農業に関するデータの紹介

② RESAS等による分析（演習）

＜参考＞ 分析事例

課題の特定・・・山形県上山市の事例
施策案導出・・・長野県の事例

分析の全体像

課題の特定までを山形県上山市を例に説明します。

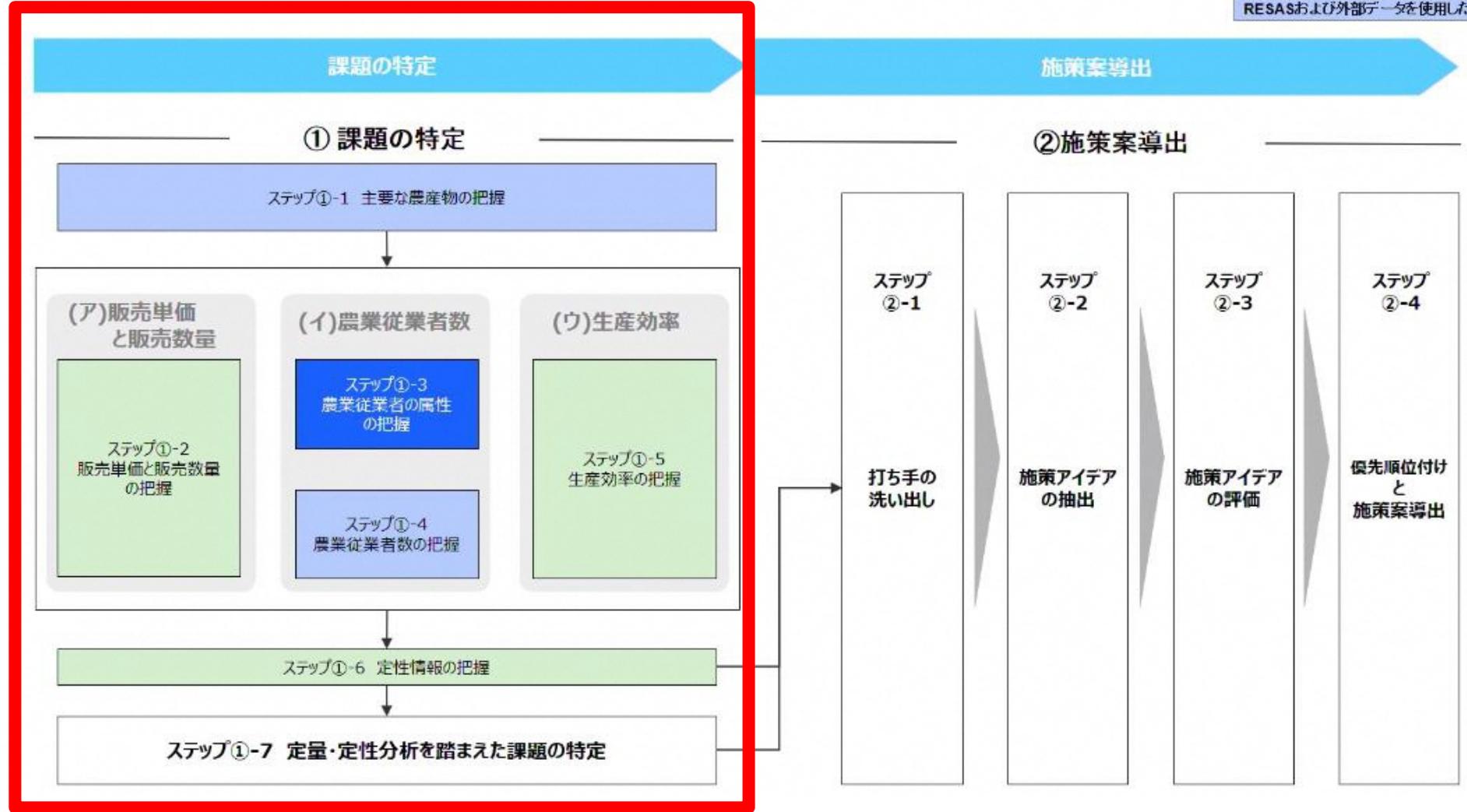
問題意識：農業収入の向上 ※前提条件



課題特定のための分析手順、施策案導出の手順

RESASデータを使用した分析
外部データを使用した分析
RESASおよび外部データを使用した分析

フェーズ
プロセス
ステップ



※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

①-1 主要な農作物の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順

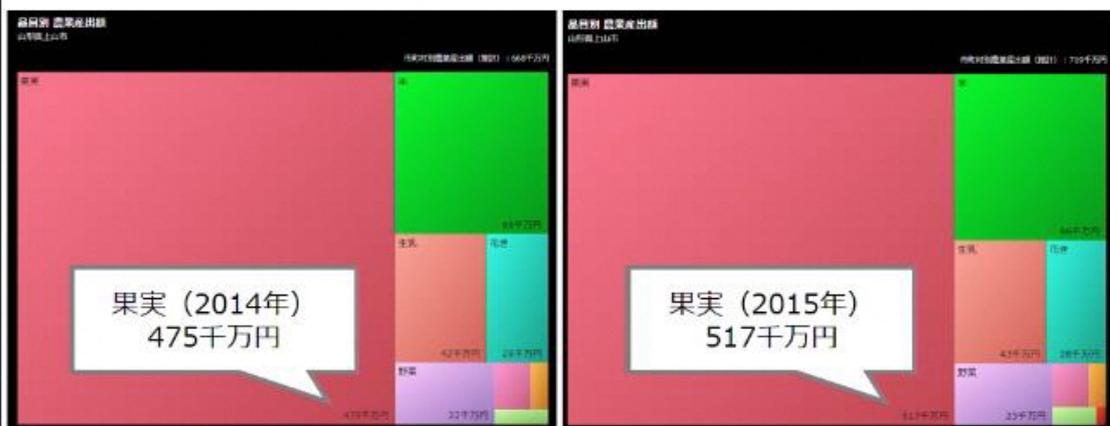


①-1 主要な農産物の把握

「現状把握のための分析手順」で実施するため、参考情報として掲載

品目別農業産出額(2014年)

品目別農業産出額(2015年)



◆ 分析目的
特徴的な農産物を把握する (中分類)

- ◆ 使用データ
- RESAS
 - ・ <産業構造マップ> 農業の構造
 - RESAS以外
 - ・ 使用せず

◆ 分析結果

- 果実の産出額が全体の半数以上を占め、ここ2014年から2015年で産出額は増加している

①-1 主要な農作物の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-1 主要な農産物の把握

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	-	-
その他のかんきつ	-	-
りんご	105 経営体	17 ha
ぶどう	348 経営体	157 ha
日本なし	12 経営体	1 ha
西洋なし	243 経営体	115 ha
もも	53 経営体	9 ha
すもも	81 経営体	21 ha
おうとう	526 経営体	153 ha
うめ	7 経営体	0 ha
びわ	1 経営体	X
かき	170 経営体	36 ha
くり	4 経営体	0 ha
キウイフルーツ	5 経営体	0 ha
パイナップル	-	-
その他の果樹	30 経営体	5 ha

◆ 分析目的
農業経営体数と栽培面積の観点から、主要な農産物を把握する

◆ 使用データ
 ▶ RESAS
 ・使用せず
 ▶ RESAS以外
 ・農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」

◆ 分析結果
 ▶ 農業経営体数は「さくらんぼ（おうとう）」、「ぶどう」、「西洋なし」の順に多く、栽培面積は「ぶどう」、「さくらんぼ（おうとう）」、「西洋なし」の順に多い

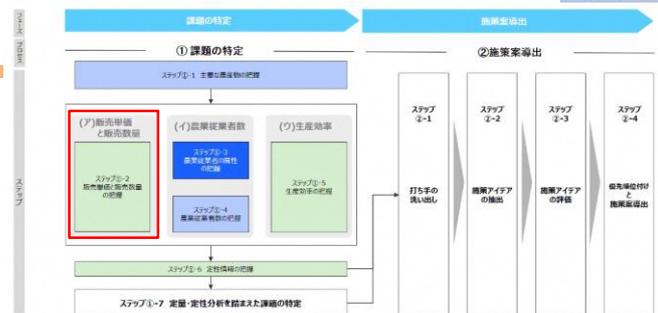
①-2 販売単価と販売数量の把握

課題特定のための分析手順、施策案導出手順

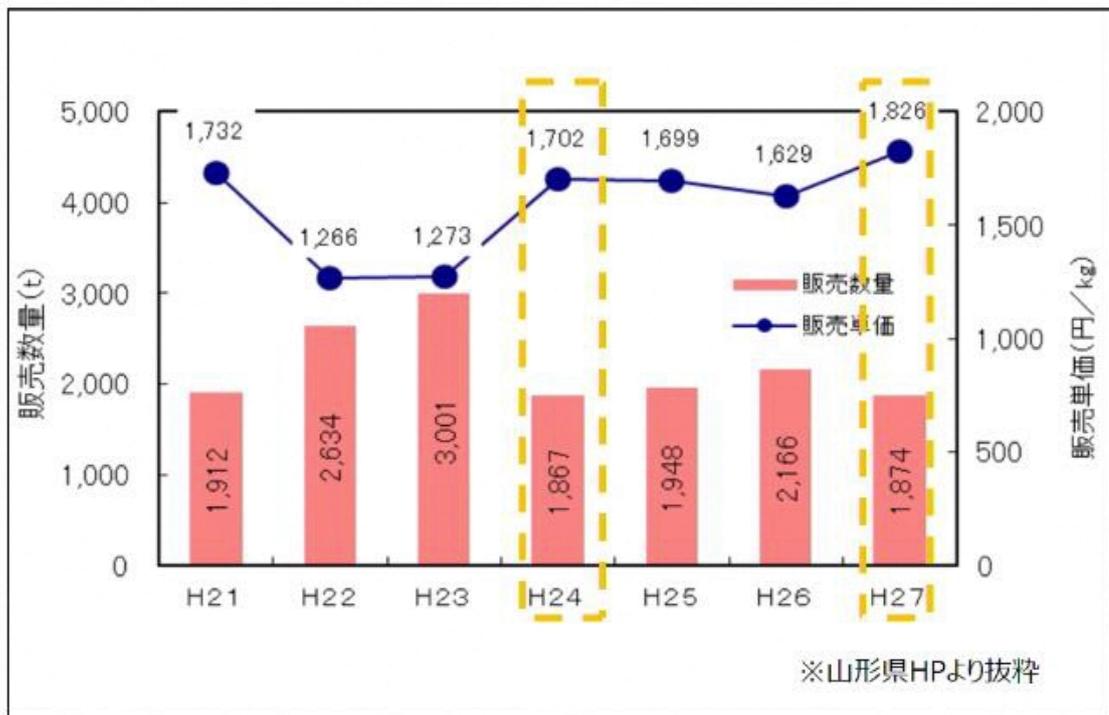
RESASオンライン講座
 生産者向け実践編
 RESASの活用①-課題特定

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-2 販売単価と販売数量の把握



- ◆ 分析目的
農産物の販売数量や卸売市場単価などを把握する
- ◆ 使用データ
 - RESAS
 - ・使用せず
 - RESAS以外
 - ・農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」
 - ・農林水産省HP 青果物卸売市場調査等
- ◆ 分析結果
 - 平成27年の山形県のさくらんぼ(おうとう)の販売単価は、販売数量が同等であった平成24年に比べて上昇している (農林水産省公表の青果物卸売市場調査等を用いれば、農産物ごとの卸売単価を把握することは可能であり、分析地域の卸売単価を推測することができる)
 - 山形県のさくらんぼ(おうとう)の販売数量は、平成21年以降で見ると平成23年をピークに減少している

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

①-3 農業従業者の属性の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順

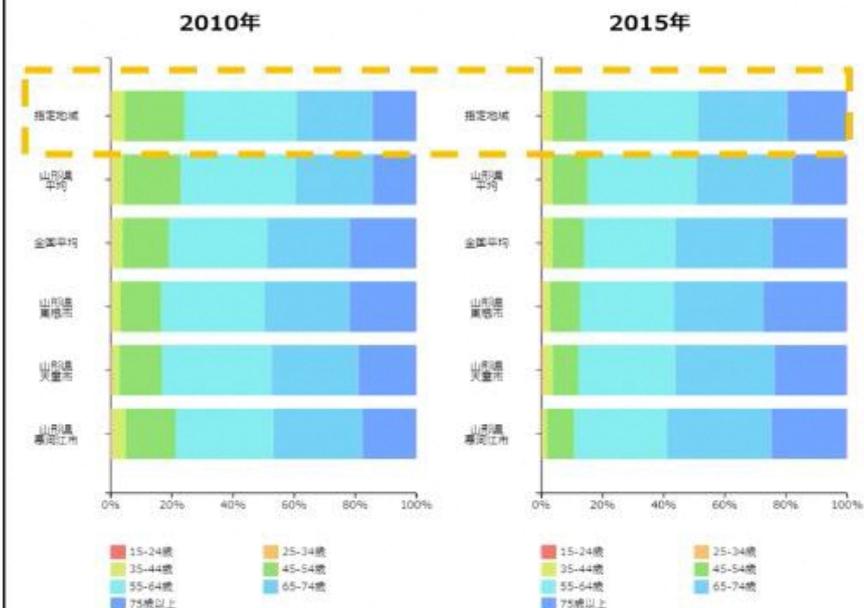


①-3 農業従業者の属性の把握

「現状把握のための分析手順」で実施するため、参考情報として掲載

農業経営者の年齢構成

指定地域：山形県上山市
性別：総数



◆ 分析目的
農業経営者の特徴を把握する

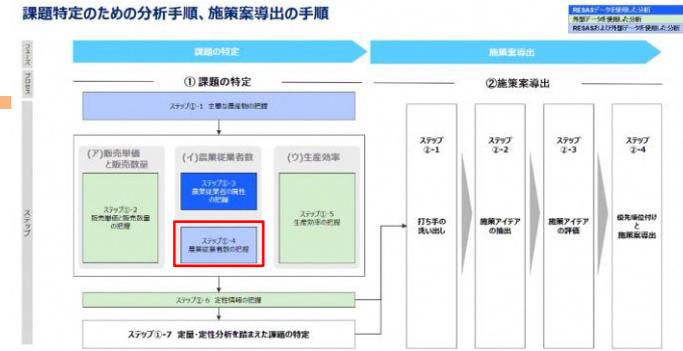
- ◆ 使用データ
 - RESAS
 - ・ <産業構造マップ> 農業者分析
 - RESAS以外
 - ・ 使用せず

- ◆ 分析結果
 - 農業経営者の年齢構成はここ5年間(2010年から2015年)で高齢化が進んでいる
 - 上山市の平均年齢は全国平均や近隣の東根市等に比べて低く、他の地域と比較して高齢化は進んでいない

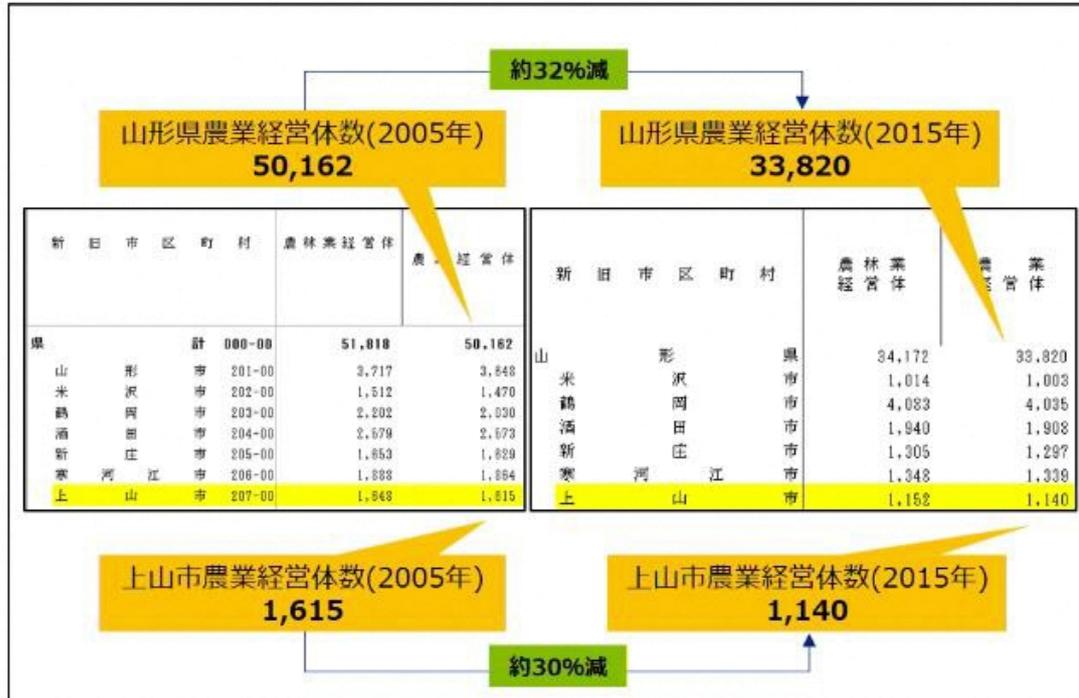
①-4 農業従業者数の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-4 農業従業者数の把握



◆ 分析目的
農業経営体数の規模と推移を把握する

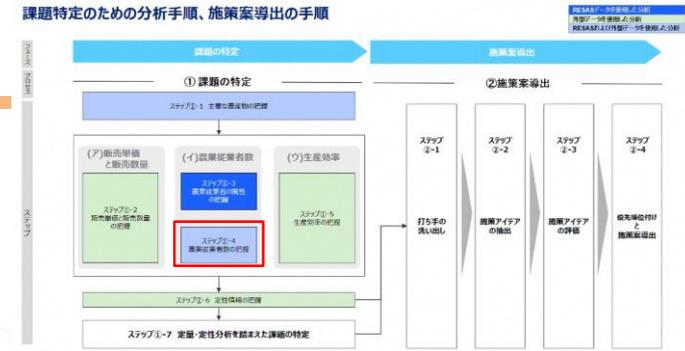
◆ 使用データ
 > RESAS
 ・使用せず
 > RESAS以外
 ・農林業センサス(農業経営体数)

◆ 分析結果
 > 農業経営体数はここ10年間(2005年から2015年)でおよそ3割減少しており、山形県内の農業経営体数の減少割合とほぼ同様である

①-4 農業従業者数の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-4 農業従業者数の把握

年度	山形県		上山市	
	2005年	2015年	2005年	2015年
男女計	146,530	53,692	4,807	2,015
男性計	80,432	29,390	2,577	1,045
~29歳	8,139	977	228	39
~59歳	39,308	6,307	1,208	214
60歳~	32,985	22,106	1,141	792
女性計	66,098	24,302	2,230	970
~29歳	4,334	509	144	39
~59歳	30,726	4,840	979	181
60歳~	31,038	18,953	1,107	750

(単位：人)

上山市農業就業人口
2005年：4,807人
2015年：2,015人
(58%減)

※農林業センサスより対象データを抽出し、再編加工

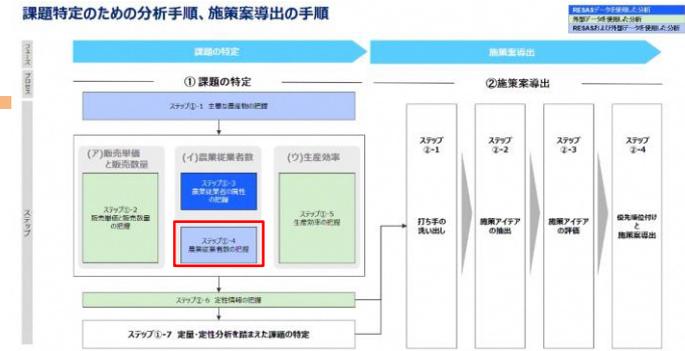
- ◆ 分析目的
農業就業人口の規模と推移を把握する
- ◆ 使用データ
 - RESAS
 - ・使用せず
 - RESAS以外
 - ・農林業センサス(年齢別農業就業人口)
- ◆ 分析結果
 - 農業従業者数はここ10年間(2005年から2015年)で上山市だけでなく山形県全体でも減少している

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

①-4 農業従業者数の把握

山形県上山市

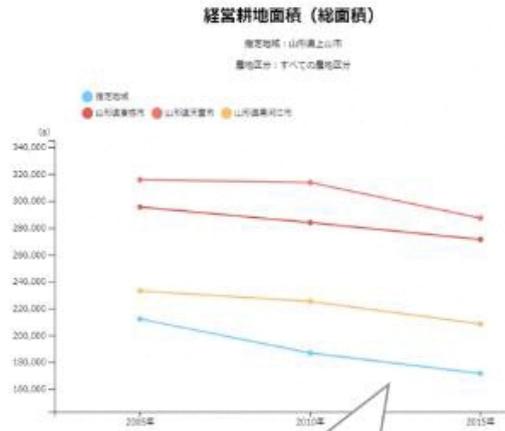
課題特定のための分析手順



①-4 農業従業者数の把握

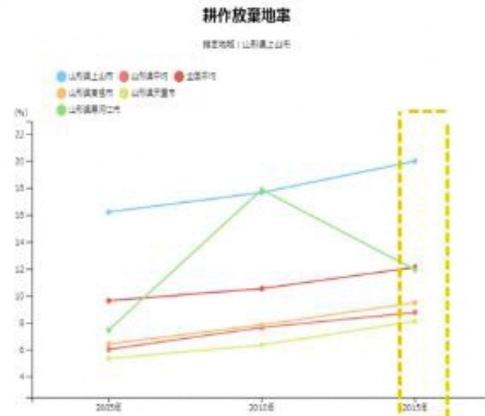
「現状把握のための分析手順」で実施するため、参考情報として掲載

上山市の経営耕地面積（総面積）



上山市
約19%減少
(2005年-2015年)

上山市の耕作放棄地率



上山市(2015年)
20.03%

全国平均(2015年)
12.14%

◆ 分析目的
農業経営体数や農業従業者数の増減に対し、経営耕地面積および耕作放棄地率がどのように変化しているかを把握する

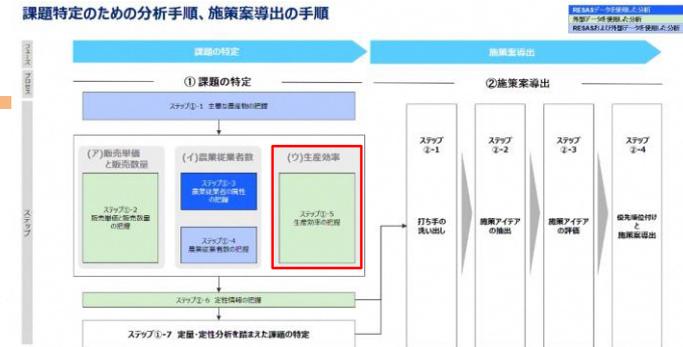
- ◆ 使用データ
- RESAS
 - ・ <産業構造マップ> 農地分析
 - RESAS以外
 - ・ 使用せず

- ◆ 分析結果
- ここ10年間(2005年から2015年)で経営耕地面積は減少している
 - ここ10年間(2005年から2015年)で耕作放棄地率は上昇しており、耕作放棄地率は全国や山形県平均より高い

①-5 生産効率の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-5 生産効率の把握

山形県の作付面積当たり収穫量（おとう）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年
おとう収穫量(t)	13,200	14,500	13,500	13,200	15,600
おとう作付面積(ha)	2,900	2,910	2,910	2,910	2,910
作付面積あたり収穫量(t)	4.55	4.98	4.64	4.54	5.36

作付面積当たり収穫量(≒生産効率)は低下していると推測できる

※農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」より対象データ抽出し、再編加工

◆分析目的
農産物の生産効率を把握する

- ◆使用データ
- RESAS
 - ・使用せず
 - RESAS以外
 - ・農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」(産作況調査(果樹)、農林業センサス等)

◆分析結果

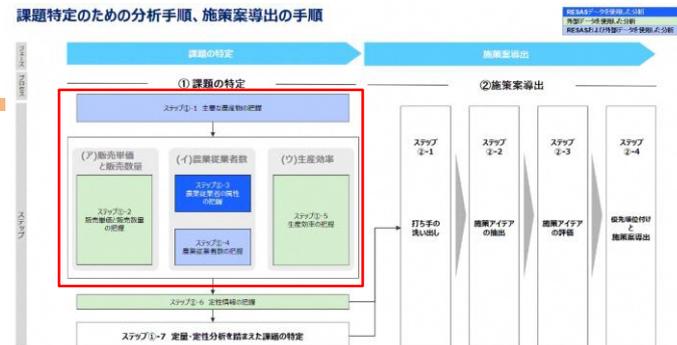
- 山形県のおとう(さくらんぼ)作付面積当たり収穫量は2011年から2015年にかけて減少している

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

定量分析結果の整理

山形県上山市

課題特定のための分析手順



定量分析結果の整理

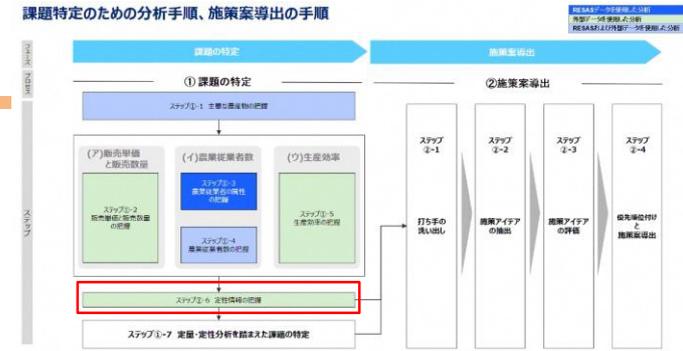
区分	情報収集のための問い	特徴記入欄	参照元の情報
農業	特徴的な農産物は何か？ 主要な農産物は何か？	<ul style="list-style-type: none"> 果実の産出額が全体の半数以上を占め、2014年から2015年で産出額は増加している 農業経営体数は「さくらんぼ(おうとう)」、「ぶどう」、「西洋なし」の順に多く、栽培面積は「ぶどう」、「さくらんぼ(おうとう)」、「西洋なし」の順に多い 	RESAS 農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」
農業	農産物の販売数量や卸売市場単価はどの程度か？	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年の山形県のさくらんぼ(おうとう)の販売単価は、販売数量が同等であった平成24年に比べて上昇している 山形県のさくらんぼ(おうとう)の販売数量は、平成23年をピークに減少している 	RESAS 農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」、青果物卸売市場調査等
農業	農業経営者の特徴は何か？	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営者の年齢構成はここ5年間(2010年から2015年)で高齢化が進んでいる 上山市の平均年齢は全国平均や近隣の東根市等に比べて低く、他の地域と比較して高齢化は進んでいない 	RESAS
農業	農業従業者数、農業経営体数はどのように推移しているか？ 農業経営体数や農業従業者数の増減に対し、経営耕地面積および耕作放棄地率はどのように変化しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営体数はここ10年間(2005年から2015年)でおおよそ3割減少しており、山形県内の農業経営体数の減少割合とはほぼ同様である 農業従業者数はここ10年間(2005年から2015年)で上山市だけでなく山形県全体でも減少している ここ10年間(2005年から2015年)で経営耕地面積は減少している ここ10年間(2005年から2015年)で耕作放棄地率は上昇しており、耕作放棄地率は全国や山形県平均より高い 	RESAS 農林業センサス
農業	農産物の生産効率率はどのように推移しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 山形県のおうとう(さくらんぼ)作付面積当たり収穫量は2011年から2015年にかけて減少している 	農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用しています

①-6 定性情報の把握

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-6 定性情報の把握

	経営者層 (法人役員以外)	経営陣 法人役員としての役員	経営陣 独立・自家経営 (非役員)	経営陣 経営者層
所得の確保	農業者に対する所得確保の重要性を認識し、経営者層に伝達し、経営者層の理解を得る。経営者層の理解を得ることで、経営者層の所得確保の重要性を認識し、経営者層の理解を得る。	法人役員として、経営者層の理解を得る。経営者層の理解を得ることで、経営者層の所得確保の重要性を認識し、経営者層の理解を得る。	独立・自家経営として、経営者層の理解を得る。経営者層の理解を得ることで、経営者層の所得確保の重要性を認識し、経営者層の理解を得る。	経営者層の理解を得る。経営者層の理解を得ることで、経営者層の所得確保の重要性を認識し、経営者層の理解を得る。
技術・経営力の習得	経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。	経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。	経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。	経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。経営者層が経営者層のスキルアップのための取組を行う。
機材・施設の新調			経営者層が経営者層の機材・施設の新調を行う。経営者層が経営者層の機材・施設の新調を行う。	経営者層が経営者層の機材・施設の新調を行う。経営者層が経営者層の機材・施設の新調を行う。
農地の確保 就農相談等	経営者層が経営者層の農地の確保を行う。経営者層が経営者層の農地の確保を行う。	経営者層が経営者層の農地の確保を行う。経営者層が経営者層の農地の確保を行う。	経営者層が経営者層の農地の確保を行う。経営者層が経営者層の農地の確保を行う。	経営者層が経営者層の農地の確保を行う。経営者層が経営者層の農地の確保を行う。

農林水産省HPより抜粋

種類	くぐりもの													
	カキ	キウイフルーツ	サクランボ	日本ナシ	西洋ナシ	ビワ	ブドウ	ウシユウモロコシ	モモ	リンゴ				
輸出相手国・地域														
韓国	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
台湾	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
中国	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
香港	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
フィリピン	×	×	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎
ベトナム	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
タイ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
シンガポール	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
マレーシア	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
インドネシア	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ブルネイ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ
インド	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
スリランカ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	×	PQ	PQ	PQ	PQ
パキスタン	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ	PQ

◎:持ち出し可
 ×:持ち出し不可
 Q,P,☆:条件付き持ち出し可

※諸外国に植物等を輸出する場合の検疫条件一覧より抜粋

◆分析目的
 課題の特定に影響し得る定性情報を把握する

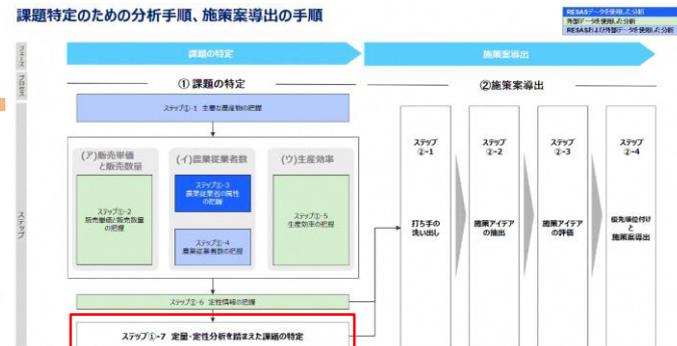
- ◆使用データ
 - RESAS
 - ・使用せず
 - RESAS以外
 - ・農林水産省HP
 - ・植物防疫所HP（農林水産省管轄）等

- ◆分析結果
 - 農業法人等の次世代経営者の育成支援など、国が就農を総合的にサポートする施策がある
 - さくらんぼ（おうとう）はアジア14か国中10か国へお土産として持ち帰ることが可能で、他の果樹類に比べて最も多い

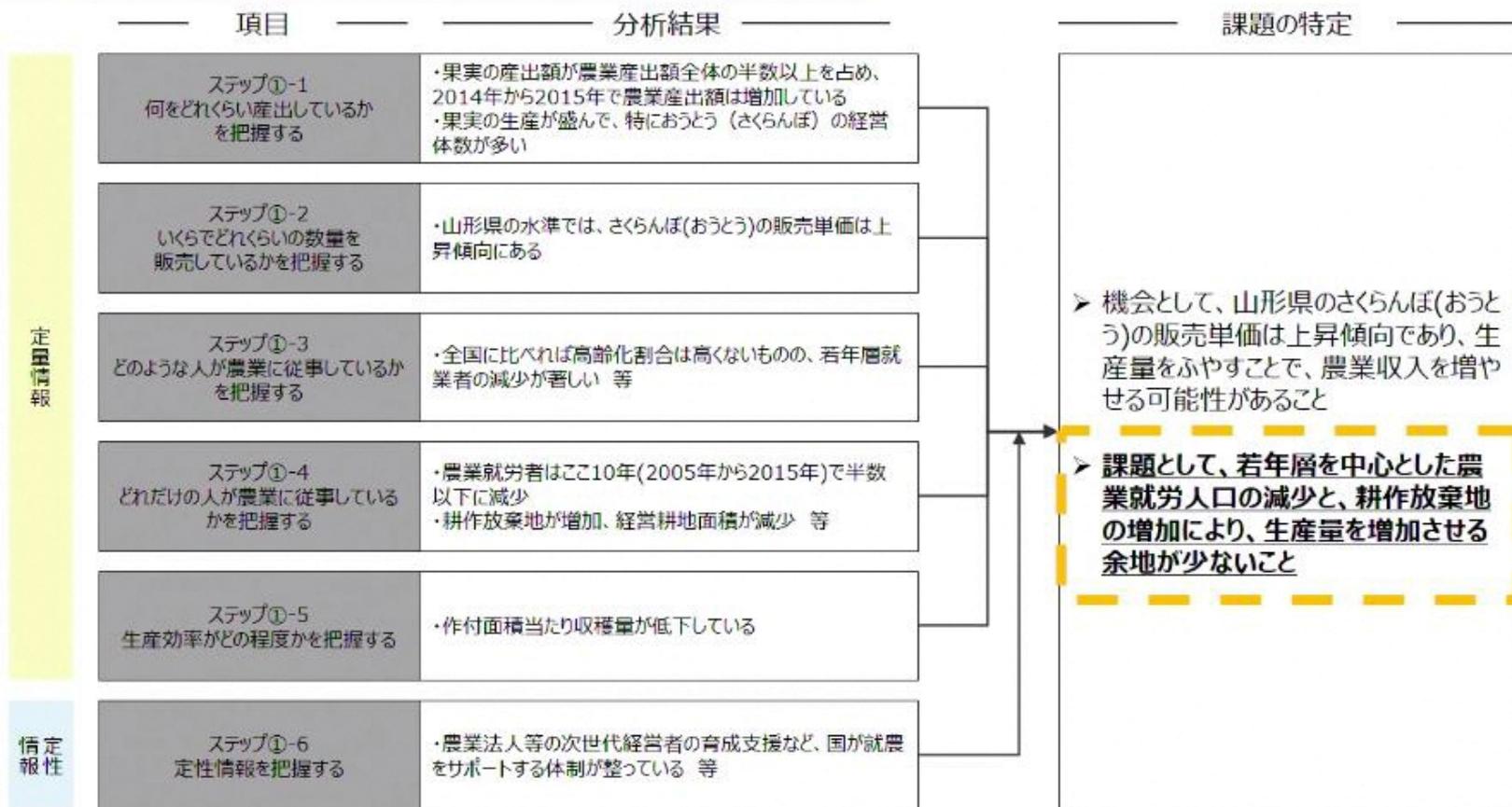
①-7 定量・定性分析を踏まえた課題の特定

山形県上山市

課題特定のための分析手順



①-7 定量・定性分析を踏まえた課題の特定



※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用しています

分析の全体像

施策案導出までを長野県を例に説明します。

問題意識：農業収入の向上 ※前提条件

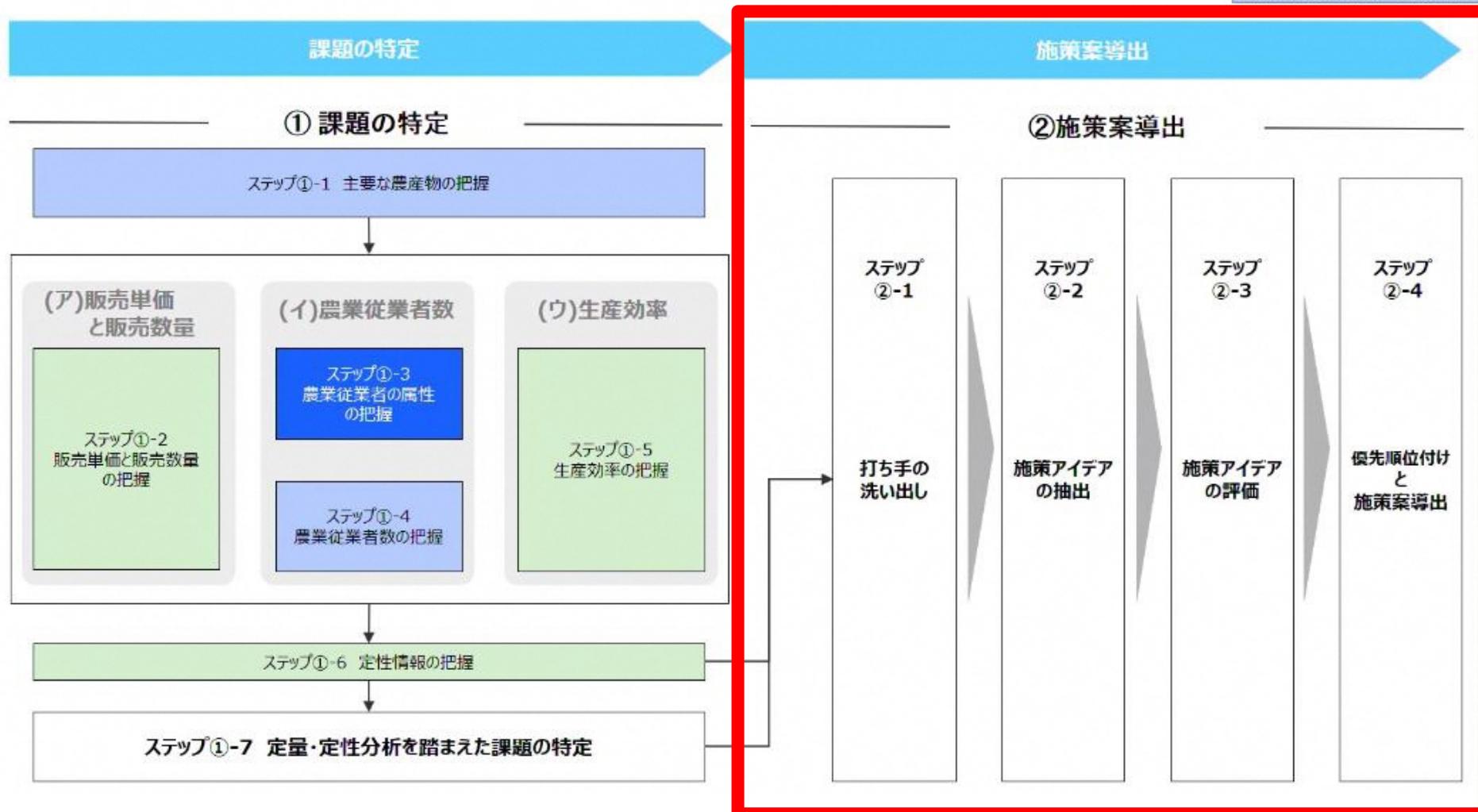


課題特定のための分析手順、施策案導出の手順

RESASデータを使用した分析
外部データを使用した分析
RESASおよび外部データを使用した分析

フェーズ
プロセス

ステップ

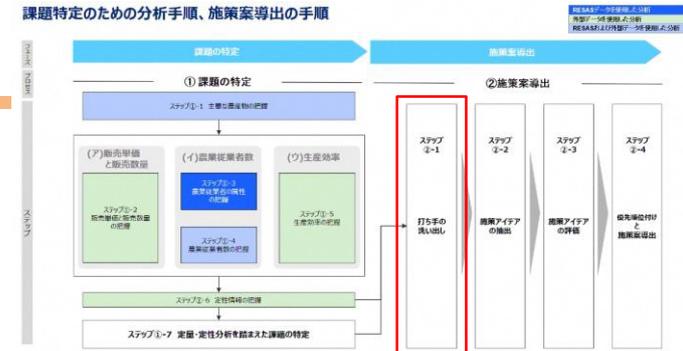


※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

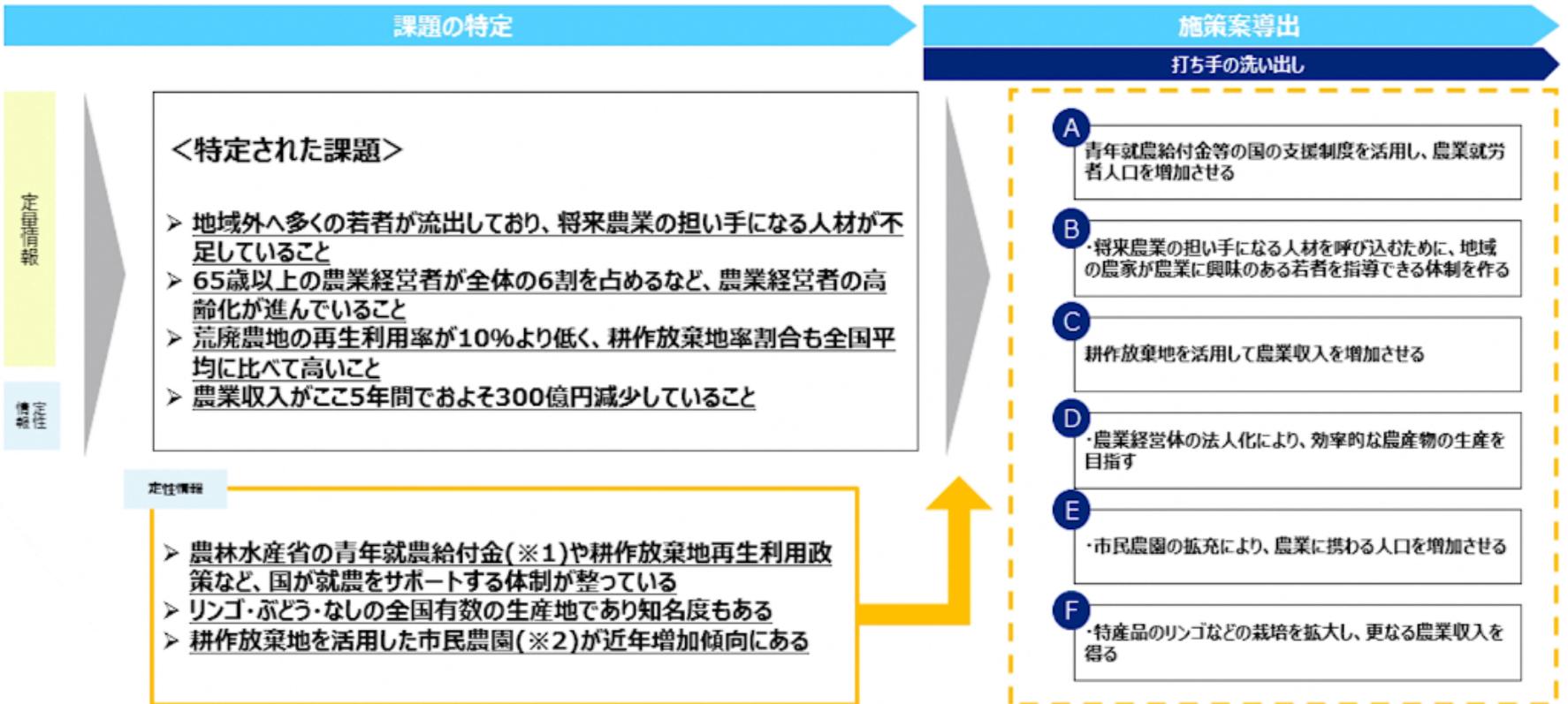
②-1 打ち手の洗い出し

長野県

施策案導出の手順



②-1 打ち手の洗い出し



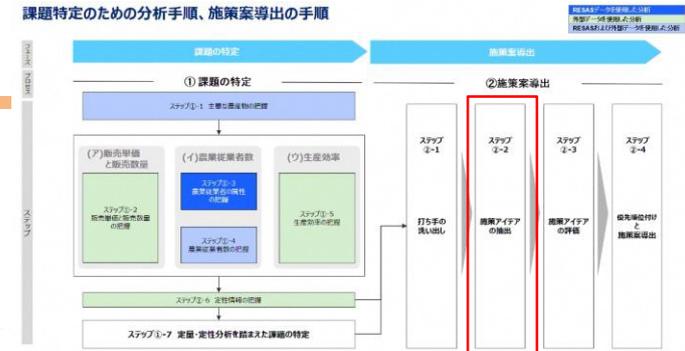
(※1)平成29年度から「農業次世代人材投資事業」に名称変更および支援内容見直し予定
 (※2)児童の体験学習や高齢者の生きがいづくりなど多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

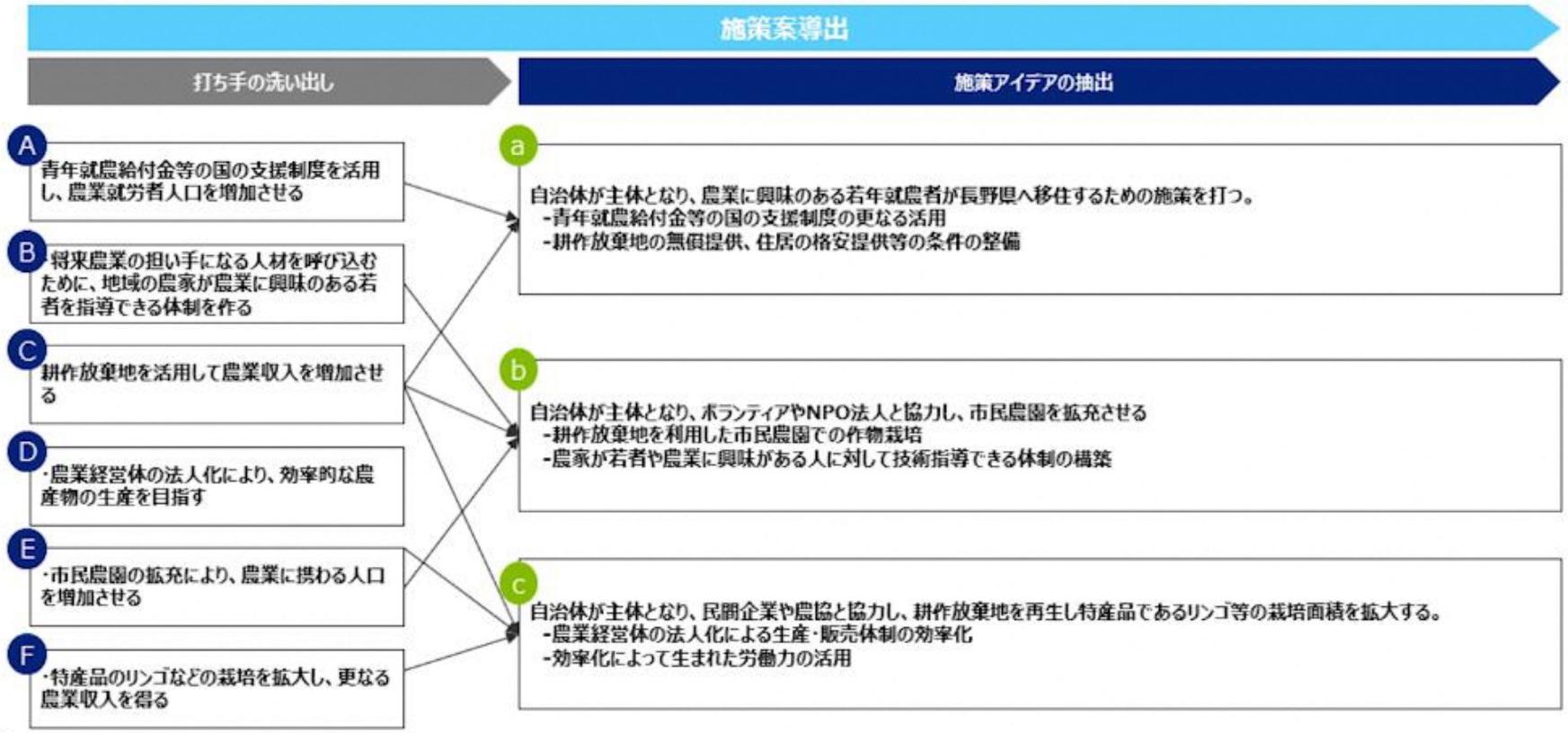
②-2 施策アイデアの抽出

長野県

施策案導出の手順



②-2 施策アイデアの抽出

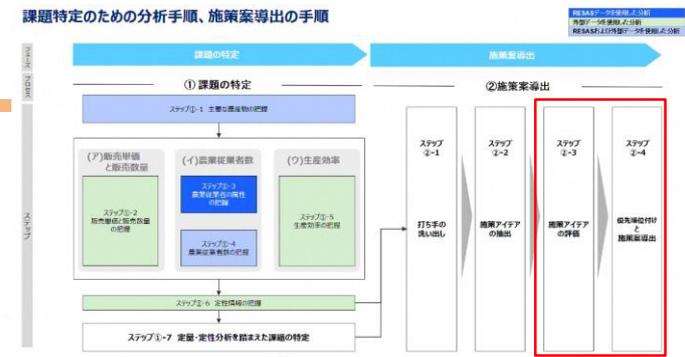


※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用してます

②-3、4 優先順位付けと施策案導出

長野県

施策案導出の手順



②-4 優先順位付けと施策案導出

どの項目に重点を置くかによって、優先順位は変わる

施策案導出		施策案導出								優先順位 (Priority)
施策アイデアの抽出	施策アイデアの評価と優先順位付け									
		実行性 (Feasibility)				課題に対する効果 (Impact)				
		ヒト	モノ	カネ	情報	時間 ^(※1) (準備/検証期間)	販売単価 ^(※2) と 販売数量	農業 従業者数	生産効率	
a	自治体が主体となり、農業に興味のある若年就農者が長野県へ移住するための施策を打ち、 - 青年就農給付金等の国の支援制度の更なる活用 - 耕作放棄地の無償提供、住居の格安提供等の条件の整備	移住を希望する若者の確保が困難	提供する住居の確保が困難	耕作放棄地の無償提供が可能	若年層移住希望者の規模の調査が困難	1年間であれば、施策の実施から効果検証まで実行可能	新規就農者によって販売数量増に影響する	将来農業の担い手となる人材確保に影響する	生産効率には影響しない	a
b	自治体が主体となり、ボランティアやNPO法人と協力し、市民農園を拡充させる - 耕作放棄地を利用した市民農園での作物栽培 - 農家が若年や農業に興味がある人に対して技術提供できる体制の構築	市民農園に興味のある人材の確保が困難	耕作放棄地の活用が可能	ボランティアやNPO法人の協力により無償で人材確保が可能	農業経営者が持つノウハウの利用が可能	1年間であれば、施策の実施から効果検証まで実行可能	市民農園の拡充で販売数量増に影響する	将来農業の担い手となる人材確保に影響する	生産効率には影響しない	b 採用
c	自治体が主体となり、民間企業や農協と協力し、耕作放棄地を再生し特産品であるリンゴ等の栽培面積を拡大する。 - 農業経営体の法人化による生産・販売体制の効率化 - 効率化によって生まれた労働力の活用	法人化を推進する人材確保が困難	生産販売体制の効率化のための施設等の確保が困難	法人化に向けた費用確保が困難	農業経営体法人化のノウハウの取得が困難	1年間であれば、施策の実施から効果検証まで実行可能	栽培面積拡大により販売数量に影響する	農業従業者数の増加には影響しない	荒廃農地の効率的な利用が生産効率に影響する	c

○：可能、×：困難 ○：影響する、×：影響しない

(※1) 時間 (準備/検証期間) 今回のケースでは、準備/検証期間を1年間と想定
(※2) 販売単価の定義 ある特定の作物の時系列もしくは他地域間土壌での単産の変化 例えば、ブランド化により付加価値が高まり、販売単価が上昇した場合は○

※本分析はRESASオンライン講座の応用編から引用しています

RESASの利用推奨環境・活用サポート

● 利用推奨環境

CPU : Intel core 2 Duo CPU E7500 以上

OS : Windows 7 (64bit) 以降

ソフトウェア (ブラウザ) : Google Chrome 41.0 以降
Internet Explorer11

● 活用サポート

- 東北経済産業局では、RESASの利活用促進に向け、「地域経済分析システム普及活用支援調査員」を配置し、地方自治体や、金融機関、教育機関、企業等における利活用をサポートしています。
- RESASでご不明な点がありましたら、お気軽に下記ご連絡先までご相談ください。

東北経済産業局 総務企画部 企画調査課

担当：佐藤、菅原、金野、植木

(電話) 022-221-4861

(メール) thk-kikaku@meti.go.jp



経済産業省
東北経済産業局